



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
31

恵那テクノパーク

市内最大の工業団地



▲手前の2区画が第3期の造成

ひと口メモ

市では2006(平成18)年に恵那市企業等立地促進条例を制定し、工業の振興を目指している。現在分譲中の第3期拡張分は、県土地開発公社と市が2007(平成19)年8月に事業の協定を締結。以来、期間約3年、総事業費約10億4千万円で完成した。

恵那テクノパークは、恵那市武並町の中央自動車道沿いの丘陵地帯に、3期にわたり開発された工業団地。近くには恵那山、かなたには中央アルプスが望める閑静で緑豊かな環境の中に、自然との調和が図れるように設計、配置されている。第1期は、県下5番目の県営工業団地として、1987(昭和62)年6月に総面積32.9㌥の本体造成工事が完了し、7区画が分譲を終了。第2期は、市営の工業団地として1992(平成4)年12月に総面積24.5㌥の本体造成工事が完了し、6区画が分譲を終了。現在、そのすべての区画で13社の企業が操業しており、従業員は約1,200人、製造品出荷額は約231億円。これは恵那市全体の製造品出荷額の約15%を占めている。また第3期拡張工事が完成して、7月26日に竣工式が行われた。総面積は11.2㌥で、2区画を分譲中。

えな自慢
32
えな人

下田歌子

女子教育の先覚者



▲下田歌子(実践女子大学図書館所蔵)

ひと口メモ

岩村城山城址公園内には、歌子の勉強部屋を復元した勉学所、銅像、顕彰碑がある。顕彰碑は、歌子が亡くなる1年前に実践女学校関係者の善意によって建立された。なんと実践女学校の校庭で刻まれ、鉄道で運ばれて来たという。

岩村藩出身の教育家・歌人で、女子教育の先覚者。実践女子学園を創設。1854(安政元)年9月30日、代々学者の家に生まれた。名は平尾鉦^{ひら お ぜき}。4歳で和歌を作り、6歳で俳句、漢詩をこなす。17歳で上京して父の元に身を寄せ、翌年宮内省の女官見習いになる。和歌に優れ、昭憲皇太后に「歌子」の名を賜った。1879(明治12)年、下田猛雄と結婚したが、夫が病気がちで不幸な結婚生活を送る。1882(明治15)年東京麹町^{とう しょう}に桃夭女塾を開設、源氏物語と和歌を指導する。1885(明治18)年、華族女子校開設に伴い、幹事兼教授に任じられる。1899(明治32)年、実践女学校(現在の実践女子大学)と女子工芸学校を創立。婦人運動にも貢献した。1936(昭和11)年10月8日、83歳で没。



下田歌子の顕彰碑▲

次号は9月15日号

発行日は9月15日(水)です

広報えな No.135

2010年(平成22年)
9月1日発行

発行 恵那市役所/編集 企画課広報広聴係

岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎26-2111/☎25-6150

<http://www.city.ena.lg.jp/> ✉info@city.ena.lg.jp

『広報えな』9月1日号、1部当たりの印刷経費は約11.3円(税込み)です。



恵那市安心安全メール配信システム

登録用QRコード

☐問い合わせ 防災情報課(内線317)

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。



この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい大豆油を使用したインキで印刷されています。